



2020年6月24日  
第47回 定時株主総会  
事業報告

ぴあ株式会社  
PIA CORPORATION

## ▶ 2019年度 業績の概要

1) 決算のポイント

2) 新型コロナウイルスの当社ならびに  
ライブ・エンタメ業界への影響

3) 当社の通期業績

4) 中期経営計画(2018~2020年度)の  
骨子と、その主な取り組み

## 1) 決算のポイント

- ① 2019年度は、特に演劇・サッカー・映画ジャンル等を中心に、興行チケット販売は好調に推移したものの、2020年2月以降、新型コロナウイルス感染拡大による政府からの自粛要請を受け、あらゆる興行の中止・延期が全国規模で発生。チケットの払い戻し対応等に関わる特別損失として、約5億5千万円を計上。
- ② 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、ライブ・エンタテインメント市場が急速に収縮したことに伴い、第4四半期の売上高が急減。また、前述の特別損失の計上により、通期での売上高、営業利益、経常利益、当期利益ともに、期初予想を下回る形で着地。配当も5円に修正。
- ③ 手元資金として約150億円の借入を準備、今後の事業運営に万全を期す。



### 【当社への影響について】

- ① 政府からのイベント自粛要請に従い、2月下旬より当社取り扱い興行の中止・延期が相次ぎ、3月以降はほぼ全てのイベントが中止を余儀なくされた。払い戻しに際しては、チケット代金に加え、サービス利用料等も全額返金しており、手続きに係る実費も含めて特別損失を計上。現在も、膨大な量のチケットの払い戻し対応が続いている。
- ② 当社主催興行についても、政府からの自粛要請に応じて、3月以降に予定されていたほぼ全てについて、中止・延期を決定。準備に係る支出や、中止による実損等を特別損失に計上。
- ③ 「ぴあアリーナMM」も、4月に予定していた「ゆず」の柿落とし公演をはじめ、その後の興行も中止となり、やむを得ず開業の延期を決定。新型コロナウイルスの収束状況を見極めつつ、7月ごろの開館を目指す。

## 2) 新型コロナウイルスの当社及び業界への影響

### 【ライブ・エンタテインメント業界への影響について】

- ・ 首相官邸での集中ヒアリング(3/24)、日本記者クラブでの記者会見(5/29)において、ぴあ総研による業界へのダメージの推計データを発表。
- ・ この状況が続けば、ライブ・エンタメ産業の年間市場規模の約8割が消失するものと予測。その窮状や対策案を各界・メディアに向けて広く発信。
- ・ 業界の構造や特性、事業者や人材への助成・支援の必要性を訴え、政府の早急な対応を要請。



		すでに発生した 【精査値※①】 (2月～3月)	すでに発生した 【確定値】 (4月～5月)	今後追加で 見込まれる 【推計値※②】 (6月～来年1月)	合計 【推計値】 (2月～来年1月の1年間)
5/29公表 (日本記者クラブ 会見時点)	①中止延期等により売上がゼロもしくは減少した公演・試合の総数	8万5,000本	11万3,000本	23万4,000本	43万2,000本
	②入場できなくなった観客総数(延べ)	5,600万人	6,500万人	1億800万人	2億2,900万人
	③中止延期等により売上がゼロもしくは減少した公演・試合の入場料金の総額	1,670億円	1,945億円	3,200億円	6,900億円
	年間市場規模9,000億円に対する消失割合	19%	22%	36%	累計 77%

※① 【精査値】とは、月末最終日までの全てを確定値により集計した、精査後の値で計算されたもの。なお、確定値には最終月の中旬以降は見込み値が入っています。

※② 【推計値】とは、7月末まで現状の状況が継続、8月以降に段階的に回復するとした場合の成り行き値を算出したものです。

## 3)業績 ①直近3ヶ年の業績推移

【連結ベース】

[単位:億円]

	2017年度	2018年度	2019年度	
	実績	実績	計画	実績
売上高	1,635	1,799	1,800	1,632
営業利益	12.2	13.7	14.5	11.0
経常利益	11.7	13.4	14.0	11.1
当期利益	7.0	8.1	8.2	1.2
配当金	16.0円	20.0円	20.0円	5.0円
配当性向	31.8%	33.8%	33.4%	55.9%

※親会社株主に帰属する当期純利益です。



# 2019年度 業績の概要

## 3)業績 ②連結損益計算書



[単位:百万円]

	【前年度】	【2019年度】	【前年度差】
売上高	179,969	163,204	△16,765
売上原価	165,101	148,943	△16,022
差引売上総利益	15,004	14,260	△744
販管費	13,626	13,156	△470
営業利益	1,377	1,104	△273
営業外収益	46	54	+7
営業外費用	75	48	△27
経常利益	1,348	1,110	△238
特別利益	—	—	—
特別損失	—	688	+688
税引き前当期純利益	1,348	422	△927
法人税等合計及び非支配株主利益	529	300	△229
親会社株主に帰属する当期純利益	817	121	△696
包括利益	828	122	△706

## 3)業績 ③連結貸借対照表

[単位:百万円]

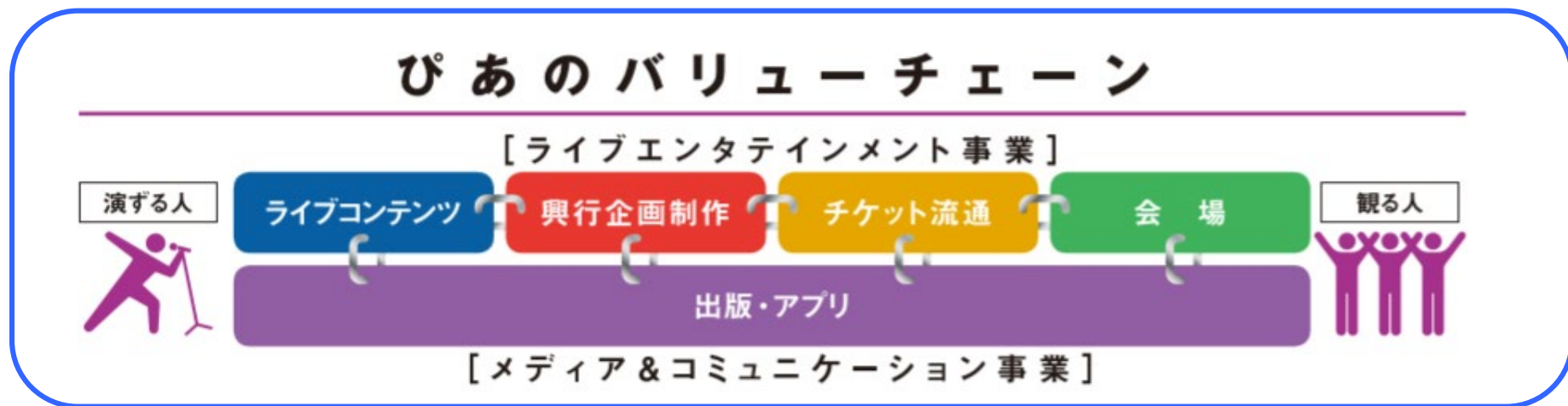
資産の部		
	【前年度】	【2019年度】
現預金	25,206	23,869
売掛金等	20,759	11,707
商品等	167	129
その他	3,718	3,116
流動資産：前年度比11,029減少		
流動資産	49,850	38,821
有形固定	4,435	11,434
無形固定	4,517	4,783
投資その他	3,895	3,570
固定資産：前年度比6,939増加		
固定資産	12,848	19,788
資産合計	62,699	58,610

負債の部		
	【前年度】	【2019年度】
流動負債：前年度比9,898減少		
流動負債	52,614	42,715
固定負債	3,483	9,875
負債合計	56,098	52,591
純資産の部		
資本金	4,924	4,924
資本剰余金	1,105	1,121
利益剰余金	4,431	4,289
自己株式	△3,904	△4,331
他包括利益	△44	△51
非支配株主持分	88	66
純資産合計	6,601	6,019
負債純資産合計	62,699	58,610



## 4) 中期経営計画(2018~2020年度)の3つの骨子

- ◆ライブコンテンツの供給からユーザー体験までをトータルに提供できる、ぴあならではのバリューチェーンの成立を目指す。



- ◆2019年のラグビーW杯や、東京オリンピック・パラリンピックをはじめとする、大規模な国際的イベントのチケットイングオペレーションの成功を通じて、国内外におけるぴあのブランド価値を高める。
- ◆新規事業・サービスの開発、女性の視点をふまえた働き方改革を推進するとともに、中長期的な事業戦略を策定する。



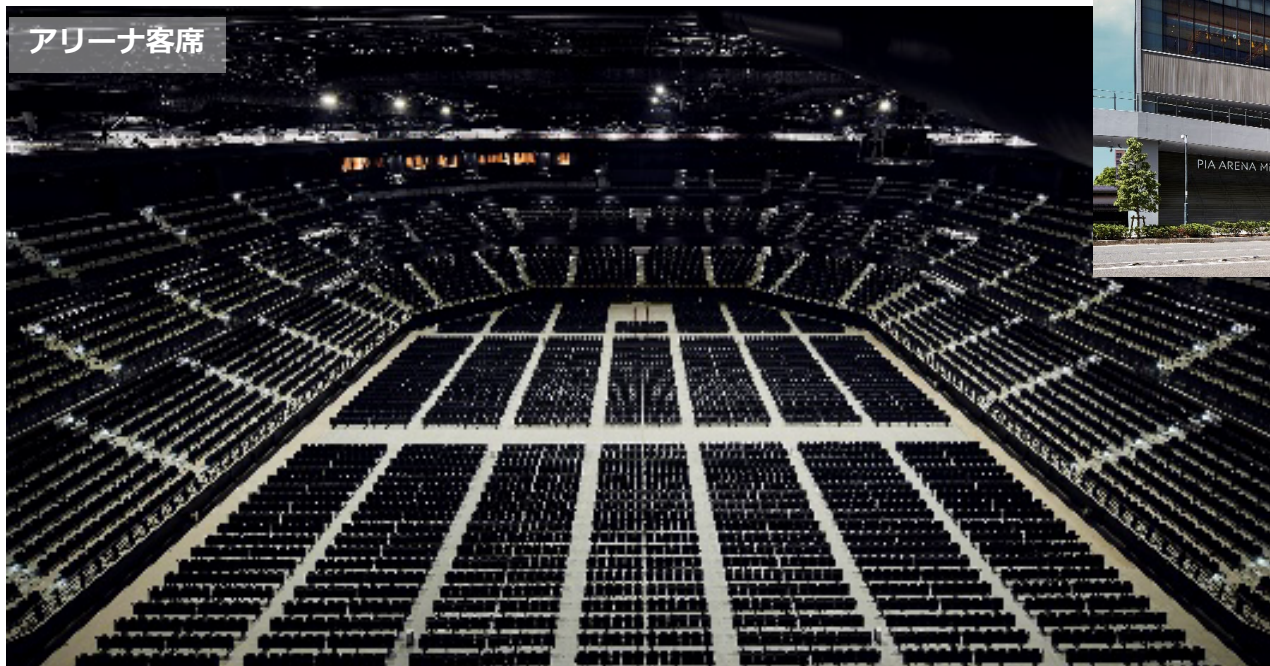
①「ぴあアリーナMM」

工事は予定通り進行し、設備も完成。新型コロナウイルスの影響で開業の延期を決定。

外観全景



アリーナ客席



エントランス



2階カフェダイニング



飲食売店



外壁／安西水丸「フライングトマト」







## ②「ぴあ(アプリ)」

ぴあ(アプリ)は掲載エリアを拡大し、関西版・中部版を2019年10月に本創刊。2020年1月には、スタートから1年余りで100万ダウンロードを突破。多彩な連載や便利な機能が好評。

トップ画像は、情報誌「ぴあ」の表紙と同様、イラストレーターの及川正通氏が書き下ろし。「ぴあ」の世界観を再現。

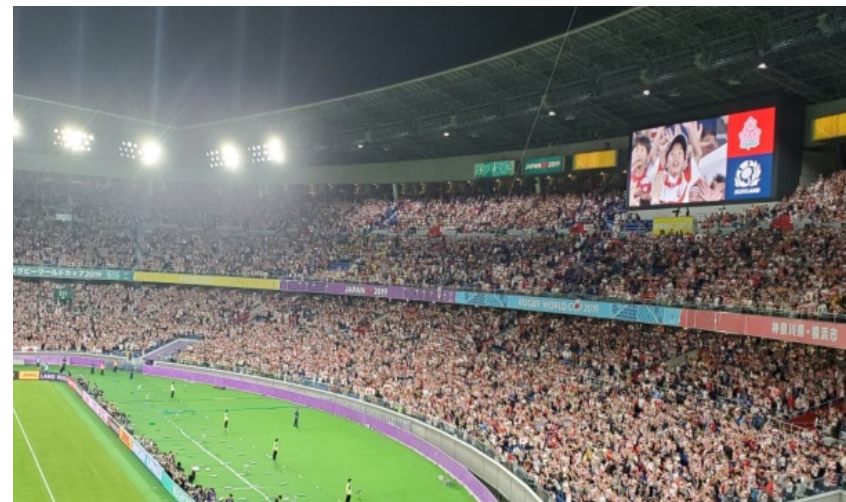


株主様には、有料会員の年会費(6,000円)が無料になる優待特典も用意。

### ③国際的イベントへの参画

#### 「ラグビーW杯2019」が無事終了

ぴあは「チケットングサプライヤー」として公式チケットサイトの構築と運営、試合当日の入場管理等の業務全般を受託。チケット販売枚数は184万枚、販売率は過去最高の99.3%を記録。



#### 「東京2020オリンピック・パラリンピック」開催に向け準備中



ぴあは「チケットングシステム&サービスオペレーション業務」を正式に受託しており、すでに観戦チケットの第1次、第2次抽選販売までを実施済み。新型コロナウイルスによる1年の開催延期決定に伴う今後の対応を検討・準備中。



④主催・出資イベント

さまざまなジャンルにおいて、コンテンツ保有者等との関係性を強化。  
収益拡大のため、興行規模も拡大中。

【2019年度の主な当社主催・出資イベント】



◆「俺 矢沢永吉」展  
(横浜)



◆METROCK2019  
(東京・大阪)



◆神宮外苑花火大会  
(東京)



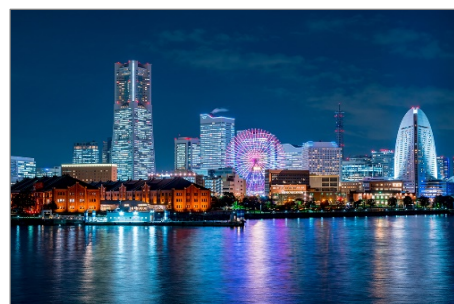
◆パンのフェス  
(横浜赤レンガ倉庫)



◆PMC「ぴあフェス」  
(東京・新木場)



◆大和証券グループ presents  
BBC Proms JAPAN  
(東京・大阪)



◆YOKOHAMA  
ミッドナイトHAR★BAR  
(横浜エリア)



◆au x PIAコラボレーション  
「uP!!!NEXT 須田景凖  
～晩翠～」

⑤新会社の設立、新たな取り組み

これまでに獲得したノウハウやリソースを活かし、新たなサービスの開発、次世代のチケット販売方法のトライアルにも着手。

ぴあフィールドサービス株式会社  
(PFS)を11月に設立

ダイナミックプライシング(価格変動制)によるチケット販売を強化



PIA Field Service

スポーツくじ(toto)事業等をぴあ本体から移管するとともに、そのノウハウを活かし、人的リソースを必要とする店舗運営支援サービスを提供。



共同出資により設立したダイナミックプラス社との協業により、Jリーグ主催試合や各クラブの販売サイト、ミュージカル公演などで、価格変動制のチケット販売方式を導入。





# ⑥ 社業を通じた社会的活動「PFF」



## 第41回「PFF(ぴあフィルムフェスティバル)」を開催



## 第1回「大島渚賞」の授賞者を発表、記念上映会を開催(丸ビルホール)



▲第41回「PFF(ぴあフィルムフェスティバル)」授賞式



▲小山明子夫人を迎えた第1回「大島渚賞」授賞式



応募総数495本の中から選ばれたグランプリは、中尾広道監督(左)の作品「おばけ」。写真右は、最終審査員の白石和彌監督。



第1回受賞者は小田香監督(左)に決定。音楽家の坂本龍一氏(右)が審査員長、黒沢清監督、荒木啓子PFFディレクターが、最終審査員を務めた。



⑥社業を通じた社会的活動「チームスマイル」他



チームスマイルでは、各界の著名人を被災地に招く「"わたしの夢"応援プロジェクト」を2019年度も継続

大相撲九月場所より、本場所の新入幕力士に「がんばれ新入幕！」の懸賞幕を掲出

懸賞幕の掲出は、新入幕当時の「貴花田」「若花田」以来。



Vol.21(福島・いわき)  
野村万蔵さん、林家正蔵さん



Vol.22(宮城・仙台)  
乙武洋匡さん、伊藤力さん、  
齋藤由希子さん、藤本怜央さん



Vol.23(岩手・釜石)  
乙武洋匡さん、齋藤由希子さん、  
萩野真世さん、村田奈々さん



Vol.24(岩手・釜石)  
野村万蔵さん、古今亭菊之丞さん





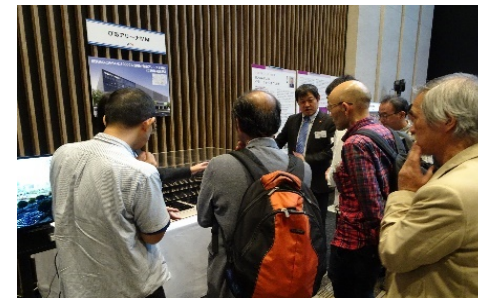
## ⑦株主様との交流・IR

### ◆第46回定時株主総会を開催

約800名の株主様が出席(6月)。  
総会終了後の経営陣との懇談会や  
PFF作品の映画上映が好評。



▲大勢の株主様が来場



▲「ぴあアリーナMM」の  
完成模型も展示

### ◆株主優待制度の拡充を発表

2期継続、100株以上を保有の株主  
様全員に、これまでの優待品に加え、  
アプリ版「ぴあ」の有料コンテンツ  
(年6,000円分)を、無料で利用できる  
株主特典を追加。

[期末保有株式数]

1,000株 以上	5,500円分	11,000円分	+ アプリ ぴあ 年6,000円分
100株 以上	2,500円分	5,000円分	+ アプリ ぴあ 年6,000円分
	2期末満(1年未満) 保有		2期以上(1年超) 継続保有
			[株式保有期間]

### ◆神奈川県在住の株主様を対象 に「ぴあ個人株主懇談会」を 横浜・みなとみらいにて開催

ランチ付きの懇談会、落語の実演会、  
チケット抽選会などを企画(12月)。



▲役員・社員との懇談会



▲恒例のじゃんけん大会





## ◆最後に

---

今般の新型コロナウイルス感染症による通期業績への影響を、現時点では合理的に算定することが極めて困難であることから、2020年度の業績予想、配当予想、ならびに、中期経営計画の数値目標等につきましては、今後、開示が可能となった段階で、速やかに公表いたします。



ありがとうございました。